

小牛田農林高等学校農業農村整備事業学習会を開催しました

令和2年11月9日、小牛田農林高等学校農業技術科農業土木コースの1年生38名を対象に農業農村整備事業学習会を開催しました。

この学習会は農業土木コースで学ぶ高校生に農業農村整備への理解を深め、学校での学習や今後の進路選択に役立ててもらうため、平成18年度から毎年開催しているものです。

今回の国営造成施設見学の学習会では、二ツ石ダム(加美町宮崎)と桑折江頭首工(大崎市三本木)、農地整備事業を実施した青生地区(美里町、大崎市)の見学を通して、農業用水や農業水利施設の役割、ほ場整備の効果などについて学習しました。

二ツ石ダムでは管理棟でダムの役割や種類・構造等について大崎地方ダム総合事務所の職員が説明を行った後、地下70mのスロープを降り監査廊の見学を行いました。

▶監査廊の見学



▶二ツ石ダムでの記念写真



▶桑折江頭首工での説明



桑折江頭首工では、巻き揚げ機のある上屋で施設の目的や洪水時の対応について、国土交通省北上川下流河川事務所鹿島台出張所の職員が説明を行いました。魚道付近ではサケが遡上する様子も見られました。

ほ場整備実施地区の青生地区では当部職員よりほ場整備の効果、暗渠排水やFOEAS(フォアス:地下水位制御システム)、同地区で営農を行っている「農事組合法人みらいす青生」、農地整備事業を実施する上での自然環境への配慮について説明を行いました。

▶青生地区での説明



宮崎小学校の6年生が稲刈りを体験しました

令和2年10月1日にNPO法人「石母田ふる里保全会」が、多面的機能支払活動の一環として、加美町立宮崎小学校の6年生を対象に、めだかの学校「びおと〜ぷ」で稲刈り体験学習を実施しました。このような体験学習は平成18年から毎年行われているもので、今年で14回目を迎えました。この日の天気は曇りでしたが、雨に濡れることはなく無事に稲刈りを終えることができました。

- ① 槌棒といわれる道具で藁を打ち、柔らかくし、稲を束ねる藁を作ります。 ② 鎌で稲を刈り、柔らかくした藁で稲を束ねます。 ③ 束ねた稲を「棒掛け」と呼ばれる積み方で積み、乾燥させます。



この他、古代の稲刈りの方法として黒曜石での穂首刈りの体験、沢蟹の保全区域の見学を行いました。

高城ごぼうの収穫が行われました

令和2年10月下旬、色麻町の高城地区（ほ場整備：H22～）にあるほ場で「高城ごぼう」の収穫が行われました。「高城ごぼう」は色麻町の特産野菜で、昭和40年まで盛んに生産され、その後、一度、生産が途絶えたものの、「農事組合法人 下高城ふぁあむ」の設立によって生産が再開されました。

高城ごぼうは高城地区の肥沃な土壌で栽培されることにより、一般的なごぼうよりも柔らかく育つのが特徴です。

きんぴらごぼうや天ぷらにするのが地元でおすすめの食べ方です。



▲ 掘り上げ機でごぼうを掘り出します。



▲ 手作業で土を落とし、折れたもの等の選別を行います。



▲ 大きさ、重さで選別を行い、袋詰め作業を行います。

令和2年度は予約販売、直売所を中心に販売されました。

農地整備事業「船越地区」で基礎工事現場見学会を行いました

令和2年10月26日、大崎市鹿島台の農地整備事業「船越地区」において事務所職員を対象に基礎工事の現場見学会を行いました。

今回の施工内容は船越地区に新たに設置する第2号揚水機場の吸水槽と取水口の基礎となるコンクリート杭を打設し、支持地盤へ到達したかを確認するために行われました。

事前に測定された地質調査業務の成果を元にコンクリート杭を打設し、地上からは見えない支持層への打ち込み確認を杭打ち込み時の反発量から計測しました。

今回の現場見学会ではコンクリート杭径350mm長さ8mの杭を用いました。結果は、計画通りの位置にて、支持層に到達し、コンクリート杭の打設が完了しました。



◀杭打機による打設状況



◀反発量の記録計測

「令和2年度第1回農業水利施設ストックマネジメント北部地方推進会議」を開催しました

令和2年12月17日に大崎合同庁舎にて「令和2年度第1回水利施設ストックマネジメント北部地方推進会議」を開催しました。

ストックマネジメント（ストマネ）とは、農業水利施設の機能診断に基づく機能保全対策の実施を通じて、既存の施設の有効活用や長寿命化、LCC（ライフサイクルコスト）の低減を図ることです。

具体的には、施設の整備補修・更新費用等の平準化及び最小化を図るために施設の現状の評価や将来の施設の状態の予測を行うことで、いつ、どのような対策を行うことが最適であるかを考慮して、計画的かつ効率的に施設を維持管理していくことができます。

今回の会議は、各市町、土地改良区の担当者を招き、以下の事項を議題に開催いたしました。

- (1)宮城県ストックマネジメント推進計画の改定について
- (2)農業水利施設ストックマネジメント事業について
 - ①ガイドラインの変更について
 - ②突発事故の対応について
 - ③機能保全計画策定事業について
- (3)個別施設計画の策定について



◀会議の様子

多面的機能支払交付金の中間確認を実施しています

農業農村には作物を作るほかにも多様な機能があります。例えば、大雨による洪水を防ぐ機能や農村の景観を保全する機能等です。こうした多様な機能を「農業農村の多面的機能」と呼びます。

この多面的機能の保全・促進する活動を実施している活動組織へは多面的機能支払交付金が支払われています。

そこで、宮城県、各市町村は毎年11月頃に、多面的機能支払交付金に係る中間確認を実施し、予算の執行状況や活動組織の活動状況の確認を行っています。

年度末には活動組織からの実績報告を受け、最終的な実績の確認等を行います。

大崎管内の活動組織は令和2年9月末現在で249組織となっています。

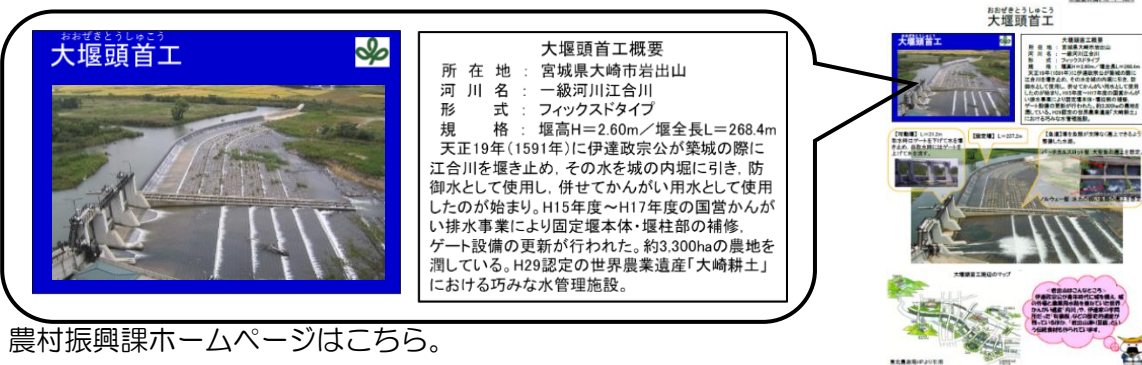
△ 注意しましょう

当管内では、今年度、活動作業中の事故が5件発生しています。活動組織に対して、安全管理の徹底と損害保険への加入促進並びに事故が発生した場合は、速やかに報告をするとともに、傾斜地や悪天候の中での作業等、事故が多発しているため、作業前に危険箇所等を確認した上で、安全作業に努めるよう周知・指導の徹底をお願いします。

「水土里の潤いカード」で農業用水利施設を紹介しています

宮城県では、広く一般の方に農業用水利施設の役割や歴史について知っていただくために「水土里の潤いカード」を作成し、農政部農村振興課のホームページ上で公開しています。

北部管内としては大崎市岩出山にある「大堰頭首工」を紹介しています。ぜひ、ご覧ください。



大堰頭首工

大堰頭首工概要

所在地：宮城県大崎市岩出山
河川名：一級河川江合川
形式：フィックスドタイプ
規格：堰高H=2.60m/堰全長L=268.4m

天正19年(1591年)に伊達政宗公が築城の際に江合川を堰き止め、その水を城内堀に引き、防御水として使用し、併せてかんがい用水として使用したのが始まり。H15年度～H17年度の国営かんがい排水事業により固定堰本体・堰柱部の補修、ゲート設備の更新が行われた。約3,300haの農地を潤している。H29認定の世界農業遺産「大崎耕土」における巧みな水管理施設。

農村振興課ホームページはこちら。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonshin/midori-uruoi.html>

宮城県北部地方振興事務所農業農村整備部

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭四丁目1番1号(宮城県大崎合同庁舎4階)

TEL 0229(91)0701(代)

FAX 0229(23)5014

ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-ns/>

編集：北部PRWG